

業務紹介 税関

調査

門司税関
調査部長

澤藤 琢也

SAWAFUJI Takuya

平成6年度入省 農芸化学



水際の規律を司るエキスパート

調査部の仕事とは

このパンフレットには税関の使命に関する紹介がありますが、調査部はそのうち「安全・安心な社会の実現」と「適正・公平な関税等の賦課徴収」に係る業務を所掌しています。税関職員には、官服を着て港や空港で業務を行うという印象を持っているかも知れませんが、調査部の職員は、スーツ姿で会社を訪問し帳簿等をチェックしたり、平易な服装で一般市民を装い嫌疑者を尾行するなど、税関庁舎の内外で仕事をしています。

調査部の仕事の中身を紹介しますと、事後調査は、企業を訪問のうえ、一定期間内の輸出入申告が適正に行われていたかについて事後的に確認する業務です。輸入は納税、輸出は経済安全保障の観点から調査を行っています。

また審理業務は、不正薬物や金地金等の密輸事件に関し、関税法等に基づいて厳正に処罰するため、証拠収集等の犯則調査を実施のうえ、検察官への告発等を行っています。税関職員は、関税法で裁判官が発給する許可状を用いて強制的に捜索・押収等を行うことが可能であり、犯則調査の基礎となっています。

情報管理は、現場での検査や取締りでの活用のため、税関の各部署で発見した密輸等に関する情報を一元的に収集し、加工・分析等を行っています。この他、輸出入申告に基づいて作成した貿易統計の公表も調査部が行っています。

調査部での取組み課題

犯則調査においては、国内外の機関との情報交換や連携が非常に重要であり、関係機関と協同調査を頻繁に実施しています。薬物事犯においては、時には「コントロールデリバリー」と呼ばれるおとり捜査を行うことにより、摘発に結びつけています。

また、近年はいわゆる「トクリュウ型犯罪」と言われる、スマートフォンなどのSNSを用いた密輸が多発しています。審理部門では、嫌疑者のデジタルデータを抽出・解析する「デジタルフォレンジック」技術を活用して証拠

収集を行うことにより、密輸の実行犯に加え、首謀者等の摘発に繋がっています。

なお昨今は、捜査関係書類のデジタル化の動きもあることから、税関の犯則調査においても対応が求められる状況にあります。

私が所属している門司税関は、関係機関との連携が良好と言われておりますが、私も調査部の一員として、他機関との会議等では関係の構築に努めています。またデジタルフォレンジック分野における九州地区の拠点税関であることから、管内以外の、長崎税関や沖縄地区税関の犯則調査への支援等にも取り組んでいます。

税関の魅力とは

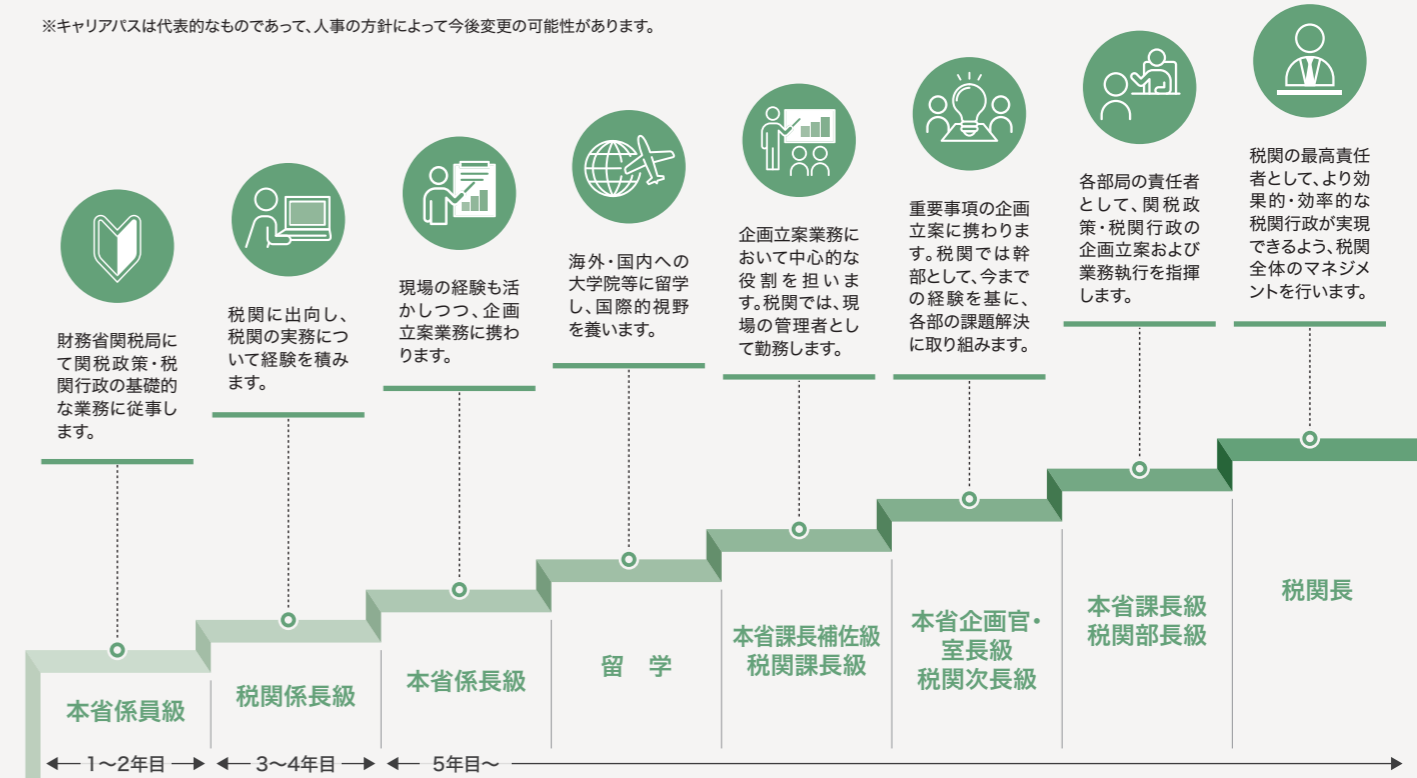
税関は、薬物取締りや徴税など、業務が明らかに国益と直結しており、それが個々の職員のレベルにまで浸透していることが魅力だと思います。総合職として採用されると、関税局での政策の企画立案、税関の現場での執行・管理のほか、海外、他省庁での勤務など、多様な機会が得られることになります。税関は、単に関税を徴収する組織という印象をお持ちかも知れませんが、実際の仕事はかなり幅があり、求められる知識も、法律、経済、外国語に加え、部署によってはシステム、化学分析など多岐に渡ります。あなたが何事にも興味を持ち、前向きに取り組める方なら、その可能性を探ってみることをお勧めします。一緒に働く日が来ることを楽しみにしています。



税関総合職のキャリアパス

税関総合職は、関税局・税関を中心に様々な部局を経験し、キャリアアップしていきます。それぞれの職員がどのような役割を担って仕事をしているのか、どのような経験をしたのかをご紹介します。

※キャリアパスは代表的なものであって、人事の方針によって今後変更の可能性がございます。



関税局第二参事官室 関税協力係

本省係員 新屋 和志

SHINYA Kazushi

令和6年度入省 経済

略歴

令和6年 4月 東京税関総務部人事課採用
関税局調査課総括係
令和7年 7月 関税局関税課(参事官室(国際協力担当)) 関税協力係

国際業務への挑戦と成長

一年目に調査課で課内の取り纏めや金密輸対策に携わった後、二年目からは第二参事官室に配属となり、主にWCO(世界税関機構)との連絡調整や、WCOで開催される各種会議への対応を担当しています。

担当する会議については、過去の議論内容やWCOから発出される資料を確認したうえで、各議題への日本の対応方針を検討しています。また、通関手続分野に関する会議では、WCO本部のあるブリュッセルへ出張し、現地で対面参加する機会にも恵まれました。各国の意見を直接聞き、議場で発言する経験を通じて、各国税関が抱える課題や先進的な取り組みに触れたことは、非常に貴重な学びとなりました。

最先端かつ専門的な議論に、しかも英語で携わることは決して容易ではなく、日々経験不足を痛感しています。しかし、経験豊富な上司や同僚からの学びを生かして仕事に取り組む中で、自分の成長を少しずつ実感してい

ます。

私が財務省税関を志望した理由の一つに、「税関での業務執行、関税局での政策立案・海外当局との調整と、幅広い業務分野がある」という点がありました。入省してまだ2年目ですが、その幅の広さは既に強く実感しています。

このように、若手職員でも多様なチャレンジングな業務に携われる財務省税関は、とても経験と成長の機会に満ちています。今後も優秀な行政官となるため、新たな挑戦を続けていきたいと考えています。





税関係長

大阪税関 関西空港税関支署
統括審査官(通関第3部門担当)付

岡村 瑛葉

OKAMURA Eba

令和5年度入省 経済

略歴	令和5年 4月 東京税関総務部人事課採用 関税局調査課総括係	令和7年10月 大阪税関関西空港税関支署 統括審査官(通関第3部門 担当)付審査官
	令和6年 7月 関税局関税課企画第一係	
	令和7年 7月 大阪税関関西空港税関支署 統括監視官(旅具通関部門 担当)付監視官	

水際最前線の現場で広がる学びと成長

採用後、約2年間関税局で勤務したのち、大阪税関に向向しました。関税局では1年目は調査課にて課の窓口として関係部署との調整業務を、2年目は関税課にて鉱工業品の税率改正、特殊関税制度の改正等に携わりました。世の中でニュースとなっている出来事が仕事と直結することもあり、業務の持つ影響力やスケールの大きさに驚きつつ、案件が無事終了した際は充実感を覚えました。大阪税関への出向後、最初の3ヶ月は旅具通関部門にて当直勤務を行い旅客の手荷物検査に従事しました。現在は通関部門にて知的財産権やワシントン条約など様々な規制に基づいて輸入貨物が適正に通関されているかの審査・検査を行っています。いずれの部門でも実際に不正薬物等の社会悪物品や知的財産侵害物品(コピー商品)等の摘発があり、迅速かつ確かな判断が求められるため高い緊張感の中で業務にあたっています。

こうした業務を通じて改めて税関が日本の水際を支える重要な役割を担っていることを日々実感しています。また、現場に来て政策を施行する側の苦勞も知ることができ、3年目という早い段階で立案側と施行側両者の難しさを経験できたことは、今後行政官として様々な政策立案に携わる上で大変貴重な経験であると感じています。税関総合職は幅広い業務フィールドを持ち、多くの事に挑戦出来る魅力的な職場です。少しでも税関に関心を持った方は是非説明会に足を運んでみてください。



本省係長

関税局調査課 情報係長

岩田 みなみ

IWATA Minami

令和3年度入省 法律

略歴	令和3年 4月 東京税関総務部人事課採用 関税局関税課(原産地規則室) 原産地規則第一係	令和5年10月 東京税関業務部統括審査官 (特別通関第8部門担当)付 審査官
	令和4年 7月 関税局監視課旅具係	令和6年 7月 関税局関税課(参事官室 (国際協力担当))関税協力係 調査官
	令和5年 7月 東京税関羽田税関支署統括 監視官(旅具通関部門担当)付 監視官	令和7年 7月 関税局調査課情報係長

情報の先にある現場を見据えて

現在、関税局調査課において情報係長として勤務しています。税関における「情報」の担当者として、覚醒剤などの社会悪物品の摘発に向けた国内外の関係機関からの情報収集、収集した情報の分析、分析した情報の取締りへの活用に取り組んでいます。近年特に巧妙化する不正薬物や金地金の密輸に対し、インテリジェンスの切り口から対応することが私の役割です。「情報」と言われてもイメージがつかないかもしれませんが、薬物・テロ・経済安全保障など出入国旅客・輸出入貨物についてのあらゆる情報を扱っています。情報を交換する関係者が多岐にわたるため、多様な分野の知見を持つ方々から、学びを得られることがこの仕事の魅力です。日々の業務では、自分の扱う情報一つが最前線の職員判断、ひいては日本の安全を左右するという責任感を持ちながら、常に情報の先にある「現場」を想像

して業務に取り組んでいます。採用されて5年が経とうとしていますが、これまで6つのポストを経験しました。国内の税関行政の執行から国際協力まで幅広い業務に携わりつつ、政策立案に係る知識や経験を獲得する機会に恵まれていると改めて感じています。税関には、自らの専門性を磨きながら、幅広い業務に挑戦できるフィールドが広がっています。このパンフレットを通じて少しでも財務省・税関に興味をもっていただけると嬉しいです。皆さんと共に働ける日を楽しみにしています。



海外留学

海外留学(米国)

長谷川 洋明

HASEGAWA Hiroaki

平成31年度入省 法律

略歴	平成31年4月 東京税関総務部人事課採用 関税局業務課総括係	令和4年 7月 東京税関羽田税関支署統括監視官 (旅具通関部門担当)付監視官
	令和2年 7月 関税局関税課(参事官室 (国際交渉担当))国際調査第一係	令和4年10月 東京税関羽田税関支署統括審査官 (検査第3部門担当)付審査官
	令和3年 7月 東京税関業務部統括審査官 (特別通関第4部門担当)付審査官	令和5年 2月 関税局監視課調査専門官 (AI等先端技術・DX)調査官
	令和4年 1月 東京税関調査部特別関税調査官 (調査第7担当)付調査官	令和6年 7月 関税局関税課経済連携室経済 連携第一係長
		令和7年 9月 留学(米・シカゴ大学)

経験が学びを広げ、新しい自分に出会う

2025年9月より米国・シカゴ大学公共政策大学院(Harris School of Public Policy)に留学しています。入省前は、法学部出身の私が経済に強い大学院に進学するとは予想していませんでした。転機となったのは、新型コロナウイルス感染症対応や旅客手荷物の取締りに係る企画立案、経済連携協定等の国際交渉といった実務経験で、私はそれらを通じて定量的な効果分析等の重要性を痛感しました。こうした背景から、留学ではデータに基づいた政策立案手法を深く学習したいと思い、同大学院への進学を決意しました。入学後の秋・冬学期は、必修科目の政治学、統計学及び経済学を学習し、今後はコンピューターサイエンスや機械学習、AIの活用法等を中心に実践的な政策分析手法を履修予定です。またシカゴ大学にはノーベル賞受賞者が在籍しているため、最先端の知見に触れながら学びを深められます。さらに弁護士、公務員等といった様々なキャリアを持つ学生が世界

各地から集結していることから、同大学院は日々切磋琢磨できる理想的な環境となっています。私生活では、米国文化に触れるようにしており、冬休みにはミュージックバーを訪れ、米国の音楽文化の一端に触れ、感動を覚えました。また日々の生活で、自分の英語の弱点に直面し、それを克服していく過程も留学の醍醐味です。帰国後は、私の財産となる現地での全ての経験を業務に還元したいと考えています。定量分析は汎用性が高いため、あらゆる場面で活用できると信じています。実務経験が新たな分野への探求に繋がり、留学での経験をその後のキャリアで活かしていく。このような経験ができる税関総合職に関心を持っていただければ幸いです。



海外留学

海外留学(英国)

飯泉 美弦

IIZUMI Mitsuru

令和2年度入省 化学・生物・薬学

略歴	令和2年 4月 東京税関総務部人事課採用 関税局業務課総括係	令和4年10月 東京税関羽田税関支署統括 審査官(検査第9部門担当)付 審査官
	令和3年 7月 関税局関税課(参事官室 (国際協力担当))関税協力係	令和5年 7月 関税局関税課関税調査室 (AI等先端技術・DX)調査官
	令和4年 7月 東京税関羽田税関支署統括 監視官(旅具通関部門担当)付 監視官	令和7年 9月 留学(英・ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス)

税関行政への新たな視点

私は現在、英国のロンドンスクールオブエコノミクス(LSE)にて、行動科学を学んでいます。行動科学とは、心理学や経済学などの知見をもとに、人がどのような意思決定を行い、どのような行動を選択するのかを理解しようとする学問です。日本ではまだなじみの薄い分野ですが、英国は世界で初めて政府内に行動科学チームを設立し、公共政策への応用において世界をリードしてきました。私がこの分野を選んだ理由は、これまで密輸事案への対応や旅具通関業務、さらにAI等先端技術を税関行政に応用する業務等に携わる中で、あらゆる施策の根底には常に人が存在しており、より良い施策をつくるためには、制度そのものや技術だけにフォーカスするのではなく、人の認識や判断の在り方に目を向ける視点も不可欠であると考えようになったからです。様々なバックグラウンドを持ったクラスメートと交流する日々は非常に

刺激的で、初めての海外生活で戸惑うこともありますが、日本を外から見つめ直し、さらに各国が置かれている立場や価値観の違いを考える貴重な機会となっています。ここでの経験は、英語力の向上にとどまらず、公務員としての総合的な能力の向上につながっていると感じています。今後は、ここで得た知識と経験を、施策立案における新たな視点として活かしていきたいと考えています。





関税局総務課 上席調査官
本省補佐 吉ヶ江 智咲子
 YOSHIGAE Chisako
 平成29年度入省 法律

略歴	
平成29年 4月 東京税関総務部人事課採用 関税局関税課(参事官室(国際協力担当)) 国際調整係	令和 2年10月 大阪税関関西空港税関支署統括 審理官(検査第3部門担当)付監視官
平成30年 7月 関税局総務課企画係	令和 3年 7月 関税局管理課調査官
令和元年 7月 大阪税関関西空港税関支署統括審査官(特別通関第6部門担当)付審査官	令和 4年 7月 関税局監視課監査専門官
令和 2年 1月 大阪税関調査部特別関税調査官(調査第2担当)付審査官	令和 5年 2月 外務省大臣官房(G7サミット事務局) 主査
令和 2年 7月 大阪税関関西空港税関支署統括 監視官(旅具通関部門担当)付監視官	令和 5年 8月 留学 (米・カリフォルニア大学サンディエゴ校)
	令和 7年 7月 関税局総務課上席調査官

支えのなかでの成長

私は現在、総務課で企画・広報を担当しています。災害対応や政策評価、様々な媒体を活用した税関PRなど業務は多岐にわたりますが、主に税関局や税関の相互調整を行っています。

これまで、係員、係長として税関局・税関での業務に加え、外務省の outgoing や留学等を経験し、昨年初めて補佐級職員となりました。

実は、私は採用後2年目のときに総務課企画係員として働いており、現在私が就いているポストにいた上司の下で業務を行っていました。当時は十分に理解できなかったことや、上司に頼りきりだったことも、これまでの経験を通じて理解できるようになったことも多く、点と点が線につながるように感じることも少なくありません。

当時頼もしく感じていた上司のような存在になれているの分かりませんが、チームが円滑に動くように支えられる存在になりたいと思いつつ日々

業務に取り組んでいます。

補佐級職員は、係の中心として物事の方向性を考えることも多い立場ですが、分からないことは勉強し、周囲に確認しながら業務を進める姿勢はずっと変わりません。税関局には困ったときに手を差し伸べてくれる方が多く、そのような方々の支えもあり、業務をこなすことができています。

まだまだ成長しなければならない点や努力が必要な点は多くありますが、税関総合職はキャリアを通じて挑戦や努力を後押ししてくれる仕事だと考えています。皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています！



長崎税関総務部 総務課長
税関課長 須藤 大地
 SUDO Daichi
 平成21年度入省 法律

略歴	
平成21年 4月 東京税関総務部人事課採用 関税局関税課(参事官室(国際機構担当)) 貿易機関第二係	平成27年 7月 関税局監視課総括係長
平成22年 7月 関税局総務課企画係	平成29年 7月 関税局関税課調査係長
平成23年 7月 東京税関羽田税関支署統括監視官(旅具通関部門担当)付監視官	平成30年 6月 外務省在香港日本国総領事館領事 課長補佐
平成24年 7月 内閣府沖縄振興局総務課事業振興室 大学院大学第一係長	令和 3年 7月 関税局関税課(参事官室(国際交渉担当)) 課長補佐
平成26年 7月 留学(英・エセックス大学)	令和 5年 7月 国際局国際機構課資金移転対策室 課長補佐
	令和 7年 7月 長崎税関総務部総務課長

の関与、マネロン対策などの業務に携わっていた際には、より大きな視野を持つことを意識していました。現在の立場では、職員が安心して働ける環境づくりや組織の意思決定など、より具体的でリアルな現場マネジメントを行うことを強く意識しています。このように政策に関与するとともに、実際の現場で働く経験ができることは、税関ならではの大きな魅力だと思います。長崎という歴史ある土地で動きながら、国内外の情勢を踏まえて組織を動かすこの仕事に、日々やりがいを感じています。

これから税関を支えていく皆さんと、同じ現場で未来をつくっていく日を心から楽しみにしています。



政策と現場をつなぎ、組織を支える仕事

出島に象徴される国際文化が息づく長崎で、私は長崎税関の総務課長として勤務しています。税関の本関で働くことは、この年次で初めての経験であり、地域に根差した組織であると同時に、国境の最前線を担う使命の大きさを日々実感しています。

税関における総務課は、組織全体の運営に関わる多岐にわたる業務を所掌しており、総務課長はそれらを総合的に管理し、組織運営を支える調整役としての役割を担っています。前向きな施策の企画・立案から懸案事項への対応まで、組織運営の全領域に責任を持つことが求められます。魅力ある職場づくりの観点からは、増加する業務をいかに効率化し、限られたリソースで最大の成果を出すか、また地域に根差す税関の魅力をどのように発信し、人材確保につなげていくかも重要なテーマです。

本省の課長補佐として、海外税関当局との連携強化や国際通商交渉へ



本省室長
 関税局 税関調査室長
 香川 里子
 KAGAWA Satoko
 平成9年度入省 法律

略歴
平成 9年 4月 東京税関総務部人事課採用
平成11年 7月 東京税関監視部国際情報センター室審理官
平成11年10月 関税局総務課税関調査室
平成13年 1月 東京税関業務部統括審査官(通関第5部門担当)付主任
平成13年 7月 東京税関調査保稅部統括調査官(調査第5部門担当)付調査官
平成14年 7月 留学(米・バージニア大)
平成16年 7月 関税局関税課(参事官室)貿易機関第一係長
平成18年 7月 関税局関税課(経済連携室)上席調査官
平成21年 7月 東京税関調査部国際情報センター室長
平成22年 7月 東京税関調査部統括審査官(審理部門担当)
平成24年 4月 税関研修所研修・研究部教官
平成24年 7月 関税局関税課税関調査官
平成25年 7月 関税局関税課課長補佐
平成26年 7月 関税局調査課課長補佐
平成28年 7月 関税局監視課課長補佐
平成29年 7月 関税協力理事会(ブリュッセル)
令和 5年 7月 関税局関税課経済連携室長
令和 7年 7月 関税局関税課税関調査室長

スマートでカラフルな税関を目指して

タリフウーマン・タリフマン誕生！

関税局税関に入省して以来、2025年ほど、タリフ、関税、と注目された年はなかったと思います。2024年6月、経済連携室長の時、特に中小企業による経済連携協定(EPA)利用の課題と対応策を検討するため、関税局は、学識経験者、メーカー、通関業者からなるEPA有識者勉強会を立ち上げました。勉強会では、企業の事業戦略における関税のインパクトの大きさを改めて認識し、中小企業の支援者としての関税の民間専門家の必要性を議論しました。2025年1月に出された勉強会の報告書を受け、6月には、通関士のEPA関税認定アドバイザー制度が日本通関業連合会により創設されました。「タリフマン」と「タリフウーマン」、全国に93名誕生です！

米国大学院で組織論の勉強をしていた際、多様性の重要性を学んだ通り、一人では知恵がなくとも、様々な背景や経験を持つ方が一緒に考えることで解決策が出てきますし、一人だと無理でも共に進めれば実現できる、と多様性の力に改めて触れた機会でした。

国際機関では紫のワンピースで国際標準作り

その米国大学院の入試のエッセイには、国際機関で動き世界の役に立つ税関の国際標準を作りたい、と書いた記憶があります。卒業して10年後、2人の母になっていましたが家族に背中を押してもらい、覚悟を決めて世界税関機構(WCO)に応募しました。採用されると、あらびっくり、世界中の税関から子連れ職員が来ていて、男女ともに学校行事やお迎えや出張と、子育てでも仕事も両立は当たり前。また、職員は、国際会議の壇上からプレゼンするのですが、それは勝負の日。赴任して最初の会議では、説明者の3人の女性職員が偶然全員赤いジャケットで登場、壇上をカラフルにしていました。私は、熟考の上、説明の日は紫のワンピースとしました。

WCOでは急増する越境Eコマースを担当し、数ヶ月に1度会議を開催

し、越境Eコマースに税関が対応するための方策を世界の税関当局や民間事業者と一緒に議論しました。立場や意見の違いなどもありつつ世界中の人達がブリュッセルに集まり、1年以上かけて皆で一つの国際標準を作り上げた経験はとてもカラフルかつパワフルで、国際的な官民協力や国際機関の役割を考える機会となりました。

先端技術で未来の税関を描く

現在、税関の中長期計画の策定やAIやDXの推進を担当しています。先端技術の国際会議に参加したり、部内有識者や外部専門家の話を聞いたりしながら、税関版生成AIの導入や、データや画像のAI解析などを進めています。外国税関との会議でも、AI開発や先端機器活用の経験をお互いに共有したり、と国際連携も進めています。

国境を越える貨物や旅客が急増し、国際情勢も急激に変化する中、安全・安心な社会の実現に向けた税関への期待は高まっています。課題は山積みですが、AI等の先端技術や色々な方の知見に頼りながら、スマートな税関を目指して頑張っています。



税関支署長

東京税関 羽田税関支署長

石川 陽一

ISHIKAWA Yoichi

平成5年度入省 行政

略歴

平成 5年 4月 東京税関総務部人事課採用
 平成13年 7月 内閣事務官(内閣官房副長官補付)
 平成15年 7月 名古屋税関総務部総務課補佐
 平成16年 7月 名古屋税関西部出張所統括審査官(通関第4部門担当)付上席審査官
 平成17年 7月 名古屋税関西部出張所統括審査官(通関第5部門担当)
 平成18年 7月 関税局関税課課長補佐
 平成21年 7月 関税局調査課課長補佐
 平成23年 7月 関税局関税課課長補佐
 平成25年 7月 函館税関総務部総務課長
 平成27年 7月 内閣官房副長官補付(日本経済再生総合事務局)企画官
 平成29年 7月 大阪税関関西空港税関支署次長
 令和元年 7月 関税局調査課専門調査官
 令和 2年 7月 関税局業務課知的財産調査室長
 令和 4年 7月 横浜税関川崎外郵便出張所長
 令和 5年 7月 門司税関監視部長
 令和 6年 7月 大阪税関関西空港税関支署長
 令和 7年 7月 東京税関羽田税関支署長



本省課長

関税局 監視課長

井田 直樹

IDA Naoki

平成4年度入省 電子

略歴

平成 4年 4月 東京税関総務部人事課採用
 平成16年 7月 外務省北米局日米安全保障条約課課長補佐
 平成18年 7月 関税局関税課(参事官室(国際機構担当))課長補佐
 平成25年 7月 大臣官房付文書課企画調整室企画調整専門官
 平成26年 7月 関税局業務課関税分類調査官
 平成28年 7月 大阪税関調査部次長
 平成29年 6月 関税局関税課国際協力専門官
 平成30年 7月 外務省G20準備事務局次長
 令和元年 7月 関税局関税課原産地規則室長
 令和 2年 7月 関税局関税課経済連携室長
 令和 4年 7月 東京税関羽田税関支署長
 令和 5年 7月 東京税関成田税関支署長
 令和 6年 7月 内閣官房副長官補付(内閣官房TPP等政府対策本部員)参事官
 令和 7年 7月 関税局監視課長



施策立案と実践の機会が共にある職場

組織の枠を超えた視点を育む

内閣官房(安全保障・危機管理担当)

2001年9月に米国で同時多発テロ事件が発生した際には、首相官邸内の危機管理センターに関係省庁から報告されるテロとの関連が想起される事象への対応等に携わりました。

省庁をまたがる課題に対応する内閣官房での勤務を経験して、関係する省庁が連携することによって事案に的確に対応することができる場合が多くあることを学びました。現在も、自らが所属する組織の視点からだけでなく、より広い視点から何をすべきか考えることを意識しています。

現場での経験を政策の立案に活かす

関税局知的財産調査室長

着任した当時、個人使用目的で輸入される模倣品への対応が大きな課題となっており、私自身、かつて次長として勤務した大阪税関関西空港税関支署で、こうした模倣品への対応に職員が苦労している状況を目の当たりにしていました。

この課題に対応するため、税関で効果的な取締りができるよう、自身の経験や税関の現場から出された意見を踏まえて、関税法の改正等の制度改正に取り組みました。2022年に改正法が国会で成立したときには、長年に亘る課題の解決に向けて道筋をつけることができたことに感慨を覚えました。

その後、日本向け郵便物の8割以上を通関していた横浜税関川崎外郵便出張所に異動になり、模倣品が多く発見される税関の現場で2022年10月に施行された制度改正の適切な執行に取り組みました。全国における知的財産侵害物品の輸入差止件数が増加する等、制度改正の効果が現れていると考えられる状況が現在も続いており、苦労した甲斐があったと感じています。

多様な経験をマネジメントに活かす

東京税関羽田税関支署長

羽田空港は、国内で24時間国際旅客便が運航している唯一の空港で、2025年の入国旅客数はコロナ禍前を大きく上回っています。昼夜を問わず不正薬物等の密輸の摘発も多くあり、羽田税関支署は大変忙しい職場です。

こうした状況の中、職員の声を聞いて、働きやすい職場環境づくりに取り組むとともに、入国旅客の増加に対応して円滑な通関と厳格な水際取締りを両立させるため、電子申告の推進や情報・検査機器を活用した効果的・効率的な手荷物検査の実施等の取組も進めています。

羽田税関支署は職員数・業務量が多いこともあり、対応について検討を要する事案が突発的に発生し、即時かつ確に判断することが求められることも多々ありますが、その判断に際しては、これまで関税局や全国の税関等で勤務して培われた多様な経験が活かされていると感じています。

多様な経験ができる職場

税関は、水際での取締りや徴税の他にも、密輸事件の調査等、性質の異なる多様な業務がある職場です。このため、異動で部署が変わることに新たに学ばなければならないことも多いですが、性質の異なる業務が関連していることも多く、日々の努力が、税関の使命である安全・安心な社会の実現等に繋がることを実感することができる魅力のある職場だと思っています。



輝ける日本の将来に向けた仕事

安全・安心な日本社会の実現

関税局監視課長

関税局監視課は、我が国の水際取締に関する監視行政全般の企画立案、各税関監視部の調整業務を行っています。我が国への輸入貨物や訪日外国人数が激増する中、不正薬物など有害な物品が我が国に入ることのないよう水際で厳格に取り締まること、同時に、我が国の経済活動を阻害しないように、これらの円滑な往来を実現すること、相反する二つの目的を同時に達成することが求められています。関税局監視課では、税関が我が国の安全・安心な社会の実現の責任者であるとの自負の下、求められる役割をしっかりと果たすため、日々取り組んでいます。

国際社会での日本の地位向上

関税局国際系課室、内閣官房、外務省

私の職歴の中で大きなウエイトを締めるのが国際系業務です。関税局ではEPA交渉、WCOでの世界税関への貢献、途上国への技術協力等を担当しました。内閣官房では、TPPの条文見直し交渉や国内産業への裨益策に取り組みました。外務省では対アジア・米国関係、G20大阪会合開催など外交政策を担当しました。外国税関との良好な関係構築、国際社会における我が国の地位向上とそれぞれの持ち場で果たすべき職務に努めました。加えて、内閣官房では、日本政府の中核として全省庁のとりまとめ役も務め、国家公務員として大きな経験を得ることができました。

我が国玄関口での水際取締

成田、羽田税関支署長

成田空港、羽田空港という日本の空の玄関口で支署長を勤める機会も

得ました。羽田ではコロナ禍後の旅客の急激な回復、続く成田では激増する外国人旅客の円滑な入国、厳格な密輸取締に対応しました。それぞれ、激動の時期に支署長として勤務し変化への適切な対応を常に探求したこと、職員全員が昼夜問わず献身的な働きをしていたこと、まさに水際最前線での勤務に明け暮れたあつという間の2年間でした。このときの経験が、今の監視課長としての職務に大きくプラスになっています。

国家公務員総合職として

私が国家公務員になってから数えると20以上のポストで勤務してきました。関税政策、税関最前線での業務、日本の対外関係、関係省庁のとりまとめ役と、その内容は多岐にわたるものですが、どれも全て日本の国益に直結するやりがいのある大きな仕事に携わってきたと思います。税関総合職の活躍の場は幅広く、税関と同時に政府全体の総合職として、日本の国益に大きく貢献する重要な役割を担っています。税関総合職を目指す皆様も、財務省税関、日本政府全体の総合職として、それぞれの持ち場で輝ける日本の将来のために大いに活躍していただければ、税関総合職の先輩として大変嬉しく思います。



税関長

神戸税関長

馬場 義郎

BABA Yoshiro

平成元年度入省 化学

略歴

- 平成元年 4月 東京税関総務部人事課採用
- 平成10年 7月 関税協力理事会(ブリュッセル)
- 平成13年 7月 国際局開発政策課課長補佐
- 平成15年 7月 関税局調査課課長補佐
- 平成16年 7月 関税協力理事会(ブリュッセル)
- 平成21年 7月 関税局監視課課長補佐
- 平成22年 7月 東京税関業務部総括的財産調査官
- 平成23年 7月 関税局関税課国際協力専門官
- 平成25年 7月 客員研究員(米・プリンストン大学)
- 平成26年 6月 関税協力理事会(ブリュッセル)
- 平成29年 7月 関税局関税課税関調査室長
- 令和元年 7月 東京税関関税情報監理官
- 令和3年 7月 東京税関成田税関支署長
- 令和4年 7月 関税局調査課長
- 令和5年 7月 関税局監視課長
- 令和6年 7月 神戸税関長



国境の未来を創る仲間へ 一緒に考え抜き、楽しみながら挑戦し、そして、次の世代に

私は今、神戸税関長として3つの使命にいかにか高い次元で両立させるかに取り組んでいます。密輸取締りや旅客検査といった最前線の業務から、AI・データ活用による新しい税関の仕組みづくり、関係機関との連携強化、そして組織運営まで——すべてが、日本の安心と成長につながる仕事です。

これまでのキャリアから培ったものを集約すると、
 ○現場にこそ知恵がある
 ○“全員プレー”が最強の組織をつくる
 ○ワクワクし楽しむこと、あそびをもつこと
 ○国際経験が教えてくれたこと
 ○データと技術は、新しい税関をつくる力になると考えています。
 (これまでの経験などは過去の採用パンフレットにも書きましたので参照してください。)

全員プレーの原点

成田空港税関のトップとして、コロナ禍で1年延期された東京オリンピックの水際対応を指揮しました。対面での意思疎通が難しい環境下でも、約60ある班すべてとミーティングをし、「どうすれば現場が最適な判断を積み重ねられるか」について600名を超えるすべての職員と議論しました。特に、同期のつながりが薄く不安を抱える新規採用職員には、現場視察や意見交換の場を設け、「自分たちの職場は自分たちでつくる」という意識を共有し醸成しました。指揮官であっても答えは現場にある——この経験が、トップダウンではなく“全員プレー”で組織を動かす私の原点となりました。

世界が広がってくれた視野

10年を超える海外勤務・世界税関機構(WCO)での経験、特に80か国ほど訪問した経験、トップの側近として勤務した経験は、私自身を大きく成長させ、視野と価値観を大きく広げました。多くの国の職員と一緒に課題に向き合い、その中で「機会が人を育て、組織を変える力を持つ」ことを実感しました。また、税関の使命は世界共通でも、そのアプローチは多様であり、対話を通じて理解を深めることの重要性を学びました。

私は常に、「本質は何か」「動かすにはどうしたらよいか」「限られた時間・

リソースをどう活用するか」そして「次にどう繋げるか」を問い続ける姿勢を大事にしています。加えて、「楽しむこと」「あそび(余白)を持つこと」も忘れない。これはどの役職でも変わらず持ち続けている信念です。

神戸で挑む革新

神戸税関に着任した年は阪神・淡路大震災からちょうど30年。訪日客の増加、国際物流の拡大に伴う金密輸・薬物犯罪の高度化、そして神戸空港の国際化や大阪・関西万博など、環境は大きく変化中のかじ取りを任せられました。

こうした状況に対し、従来の取締りの枠にとどまらず、AI・データ分析を活用した先進的な水際対策、そして各部門が連携しやすい体制づくりに取り組んでいます。

同時に、私は「開かれた税関」を目指しています。税関だけでは生まれない発想も、経済界・学界・自治体と対話し、外の知恵を取り込むことで新たな化学反応が起きます。

150年超の歴史と伝統ある組織をより柔軟に、そして“創造が生まれる組織”にするには、職員一人ひとりの主体性が欠かせません。だからこそ、若手の意見に未来の芽があると考え、自由に挑戦する風土づくりを進めています。これこそが、次の時代の税関の力になると信じています。

学生のみなさんへ

税関は、ヒト・モノ・マネー、そして膨大なデータが交差する最前線です。そこで求められるのは、知識の多寡よりも、好奇心を持ち、本質を問う姿勢、そして仲間と力を合わせて楽しみながら挑戦する意欲です。国際機関での勤務や他省庁への出向を通じ、自分の“当たり前”を疑い、視野を広げる機会が数多くあります。大きく成長できます。

国の信用を守り、希望ある社会を次世代に引き継ぐ——あなたの一歩が、これからの日本の安心と安全、経済発展を支える大きな力になります。

ぜひ、国境の未来を一緒につくっていきましょう。



税関総合職の活躍するフィールド

税関総合職職員の活躍の場は、他省庁はもちろん、世界にまで広がっています。関税局・税関とは異なる環境に身を置く職員から、現在の業務などについて紹介します。



財務省・税関の主な海外ポスト一覧

● 国際機関、大使館等在外公館、外国税関等に派遣 ● その他、外国大学への留学・研修のための派遣も多数在り

WCO関係

- 1 WCO(ブリュッセル)
- 2 WCO/ROCB(タイ)
- 3 WCO/RILO(東京)

大使館/総領事館

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 在ベルギー日本国大使館 | 9 在フィリピン日本国大使館 |
| 2 在ジュネーブ国際機関日本政府代表部 | 10 在タイ日本国大使館 |
| 3 在ウラジオストク日本国総領事館 | 11 在ミャンマー日本国大使館 |
| 4 在大韓民国日本国大使館 | 12 ASEAN日本政府代表部 |
| 5 在中華人民共和国日本国大使館 | 13 在オーストラリア日本国大使館 |
| 6 在上海日本国総領事館 | 14 在アメリカ合衆国日本国大使館 |
| 7 在香港日本国総領事館 | 15 在ブラジル日本国大使館 |
| 8 交流協会台北事務所 | 16 在ボリビア日本国大使館 |

JICA専門家

- 1 JICA(ミャンマー計画財務省)
- 2 JICA(タイ税関)
- 3 JICA(カンボジア経済財政省)
- 4 JICA(ラオス財務省)
- 5 JICA(マレーシア財務省)
- 6 JICA(フィリピン財務省)

長期出張者

- 1 長期出張(英国)
- 2 長期出張者(フランス)
- 3 長期出張(ロサンゼルス)
- 4 長期出張(バージニア)
- 5 長期出張(ドイツ)
- 6 長期出張(タイ)

その他

- 1 政策研究大学院大学
- 2 JETRO(ホーチミン事務所)
- 3 JETRO(ジャカルタ事務所)
- 4 ハーバード大学
- 5 コロンビア大学
- 6 マドリッド・カルロス3世大学
- 7 シカゴ大学
- 8 ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン
- 9 ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス
- 10 メキシコ国立自治大学